

## ●第十三回新選組書展の課題について

### 課題①「誠」

新選組の袖章や隊旗などに使われた、新選組を象徴する一文字。例年の課題です。

### 課題②「小子も無異ニ加年在勤仕候」(「ニ」は「に」でも可)

今回の「候文」の課題は、令和元年(2019年)が没後百五十年であった土方歳三が、京都から故郷の親戚平家に宛てた書状(高幡不動尊金剛寺所蔵)からの課題です。

書状が書かれたのは文久四年(1864年)の正月で、課題の部分は

「小子(しょうし)も無異に加年(かねん)在勤つかまつり候」と読み、

「私も無事に年を越し、仕事を勤め上げました」という意味になります。「小子」とは現在も耳にする「拙者」「小生」などと同じく、自らを謙遜して呼ぶ言葉です。「加年」とは年を取ることですが、当時は数え年のため、一歳年を取るとは正月を迎えることで、一年を過ごした、年を越した、ということを表しています。

土方達にとって前年(文久三年)は、多摩の剣術家であったところから浪士組の募集に応じて上洛し、浪士組分裂後も壬生にとどまって京都守護職の預かりとなり、幕府のために活躍し、新選組の名を賜ったという、その後の人生が一変する激動の年でした。この一文からは、激動の一年を終えた年末年始を無事に越えられたことを安堵するような思いが伝わってくるようです。

### 課題③「土方歳三」(「歳三」でも可)

第十二回書展の「日野」で、第六回書展の「壬生」からはじまった地名シリーズもひとまわりいたしました。

今回からは隊士人名シリーズがはじまります。初回となる今回は、令和元年(2019年)が没後百五十年であった「土方歳三」を課題といたします。

〔翻刻〕

再白 今般

御上洛二付 去ル二日下坂 一昨八日浪花へ

御到着被遊候御砌 御警固被仰付候ヶ処

略凶愚書二相認申候 御一覽

可被成下候 以上

新曆之御吉慶 無休期

申納候 先以其御 栖被為揃 弥

御清栄ニ御超歳被成 千万

芽出度奉賀候 御次ニ**小子も無異ニ**

**加年在勤仕候** 乍慮外御放意

可被成下候 先八年甫御祝詞を

申上度書入置 猶期後日時候

恐惶謹言

土方歳三

正月十日

平 忠右衛門様

御内 作 平様

〔大意〕

今回の將軍様の御上洛につき、新選組は去る一月二日に大坂(大阪)に下り、將軍様は一昨日の一月八日に大坂にご到着なされた。その際新選組が警護を任された箇所を略図でこの手紙の裏に書きましたのでご覧ください。

新年の慶事をとどこおりなく済ませました。

まずもって御当家様も勢揃いで御越年なされ、たいへんめでたく賀したてまつります。

私も年を越し、仕事を無事に勤め上げましたのでご安心ください。

まずは新年のご挨拶を申し上げました。後日またお会いしたいものです。

土方歳三

正月十日

平 忠右衛門様

御内 作 平様